

題名 広島平和念式典派遣事業に参加して考えること。

鹿沼市立東中学校 (氏名) 福田 佑太



私は、この派遣事業に参加する前までは、戦争はやってはいけないと分かっていてものの、戦争の被害の大きさというのは全く分からず、ただ、何となく戦争はやってはいけないと思っていただけでした。しかし、この派遣事業を通して、戦争の悲惨さや被害の大きさを知ることができました。たった1つの原子爆弾で、日常や笑顔を壊し、にぎやかな街を静かで何も無い場所へと変えました。そして、なんとか生き残れた人々の、その後の生き方も差別やがんなど、辛い生き方をした人が大勢いることが分かりました。生き残った人々でさえ、今も辛い日々と付き合っている現実を知りました。被爆者もどんどん高齢化していき、戦争の現実を伝えづらくなっている今、私が橋渡しになって、学校全体や、家族、身の周りの人々に戦争の恐ろしさや、現実というのを伝えていきたいと思います。